学校番号	3005

令和２年度　工業科（グラフィックデザイン系）

教科	工業	科目	デザイン技術	単位数	２単位	年次	２年次 （深化コース）
使用教科書	デザイン技術（海文堂出版）						
副教材等	自作プリント資料						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

デザインに関する基礎的基本的な知識の習得を目指し、ビジュアルデザインはもちろんプロダクトデザイン、スペースデザイン、さらにはマーケティング等の現代のデザインを取り巻く外郭にもアプローチする。またデザインの歴史や背景にある社会情勢を理解し、デザインの核になるものを捉えて実際の作品づくりに活かせる能力を身につける。視聴覚教材を活用して、「デザイン」に関わる基礎知識の定着を第一の目標とする。

２　学習の到達目標

・単元毎の演習課題によってどの程度理解しているかを否か測る。
・授業態度・課題提出状況などを評価の対象とする

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	デザイン技術に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	デザイン技術に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	デザイン技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	デザイン技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察記録表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 観察記録表 レポート自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

ローテーション	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	デザイン技術	・デザインの定義 ・デザイン企画 マーケティング リサーチ 販売促進活動 ・デザインの領域 ・ビジュアルデザイン(VD) VD の概要 VD の変遷 VD の構成要素 グラフィックデザイン パッケージデザイン ・プロダクトデザイン(PD) PD の概要 PD の変遷 プロトタイピング思考 システムデザイン ・スペースデザイン(SD) PD の概要 PD の変遷	◎ ○ ○ ○ ○ 	◎ ◎ ○ ○ ○ 	 ◎ ◎ ◎ 	○ ○ ○ ○ ○ 	a: デザインの概要、ビジュアルデザインを中心にプロダクトデザイン・スペースデザイン・マーケティングの基礎的な知識と技術を理解している。 b:「デザイン」は生活に必要な用具を生産する場合、「もの」の機能や構造などの属性を美的に総合的に計画する意味について、主として形態構成の観点から学習する。 c:習得した知識を元にかくデザイン領域の製品や商品に能動的に関わりを持ち、課題や価値を探求し、作品やレポートに活用する。 d:現代のものづくりにおけるデザイン的なものの見方考え方が求められていることを理解し、各デザイン領域の特徴やニーズを掴む。	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察記録表 自己評価・相互評価 等
後期	デザイン史	①日本のグラフィックデザインの歴史 ・江戸時代 ・明治・大正・昭和時代 ②世界のグラフィックデザインの歴史 ・産業革命とデザイン ・アーツ&クラフト運動 ・ポスターの時代 ・アールヌーボーの世界 ・アールデコのデザイン ・近代デザイン	◎ ◎	○ ○	○ ○	◎ ◎	a:「かたちには、すべて意味がある」ということを、過去の作品の歴史的背景、地理的要因、人間の思考パターンなどをもとに考察する態度を養う。 b: アクティブラーニングを実施し、生徒同志学びあうためのより良い方法を考えさせ、プレゼンボードに表現させる。 c:「原因と結果」を学習し、「分析と発見」を思考する技能を身につける。 d: 多角的な視野から過去のデザインの成り立ちを学ぶことにより、現在の社会情勢や将来の環境、またその時の人間の精神状態などを分析すると、現代あるいは未来に必要とされるものを予測できるということを理解する。	学習状況の観察 ワークシートの記述 作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価 等

表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。